

編集後記

『総合文化研究』は20号という区切りを迎えた。

本号の特集は「文学の移動／移動の文学」である。活動報告にあるように、所員の一部で立ち上げた同名の研究会があつて、ここにその成果として三本の原稿を掲載している。自由テーマの投稿枠についても二本の寄稿論文があつた。所員がかかわつた催し物の報告を見るとわかるように、この一年は例年と同じか、それ以上に多くの催しがあつたのではない。講演会や研究会は、企画に当たつて果たしてどれくらいの人に来るのか、少々心配になることがあるのだが、いつも予想に反して多くの出席者があつたと記憶する。登壇された方々の話はどれも貴重で、出席して良かったと思つたものだ。本号のもう一つの目玉は、所員が刊行した書籍のレビューである。今年七冊の本がとりあげられている。レビューの書き手は、まずは所員を念頭に置いているが、難しい場合には外部にお願いする。今号でもそのようにしたが、結果的に多彩な執筆陣が揃つた。お忙しいなか引き受けていただいた七名の執筆者には深く感謝する次第である。

以上が、編集しようやくわかつた本誌の基本フォーマット、つまり容れ物である。バックナンバーを眺めてみると、この雑誌には、学術性はもちろんのこととしても、紀要とは少し趣の違う、文化・文芸誌の方向性といえいいのか、自由な表現、肩の凝らない遊びがあるような気がする。文章表現のかたちは多様だから、半ば自戒を込めて書くのだが、いい意味での遊戯性なくしては表現がどんどんか細くなってしまう。容れ物があるというのとはともありがたいことで、特集であれ、レビューであれ、かなりの自由を行使できる場所のあることを悦びだとしてらえたい。手にとって厚みを確かめられる体裁が続いて欲しいものだ。

編集実務にあたつては、教務補佐の石井沙和さん、横田さやかさん、笹山啓さんの力がなければ完成にはいたらなかった。欧文目次のページをご覧いただければわかると思うが、これだけのものを揃えるだけでも大変な労力がある。もちろんそれだけではなく、スケジュール管理から何から何までお世話になった。ここで改めてお礼申し上げます。

(久野量一)

投稿規定

1. 『総合文化研究』は東京外国語大学総合文化研究所の研究活動の成果ならびに所員の研究成果の発表のために、同研究所の責任において編集・発行される。なお本誌掲載の論文等に関しては、著者が著作権を有するが、著作権法で規定する複製権及び公衆送信権については、著者は国立大学法人東京外国語大学にその使用を許諾するものとし、本誌掲載論文等は同大学によって電子化・公開される。
2. 『総合文化研究』は原則として各年度ごとに1号を発行する。同研究所は同誌発行のために編集委員会を置く。
3. 投稿は、同研究所の所員ならびに同研究所の研究活動に寄与した者が執筆した未発表の論稿に限る。
4. 編集委員会は必要に応じて外部の者に寄稿を求めることができる。
5. 内容区分は「特集論文」「自由論文」「報告」「書評」とする。
「特集論文」：特集テーマに沿った、執筆者自身による未発表の研究論文。
「自由論文」：執筆者自身による未発表の研究論文。
「報告」：同研究所で開催した講演会・シンポジウムの内容についての報告。
「書評」：書評・新刊紹介等。
6. 使用言語は特に制限しない。ただし、印刷の都合上、言語によっては、写真製版用完全原稿を要求することがある。
7. 写真・図表等は完全原稿とし、希望の大きさと挿入箇所を指定すること。
8. 注は、後注とすること。
9. 参考文献等は、注の後に付すこと。
10. 投稿原稿は、返却しない。
11. 同誌発刊後に、本文等を訂正する必要がある場合は、著者からの申し出に基づき、正誤表で対応することを原則とする。
12. 編集上の細則については、編集委員会が適宜これを定める。

Trans-Cultural Studies No.20 総合文化研究 第20号

2017年3月22日発行

責任編集 久野量一

編集スタッフ 石井沙和 笹山啓
横田さやか

発行 東京外国語大学 総合文化研究所
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
電話 042-330-5409
Fax 042-330-5410
Web <http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ics/>
e-mail tufs422ics@tufs.ac.jp

印刷 株式会社アズディップ
武蔵野市中町2-5-4 君島ビル2F